

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【文化・人材交流 in サハリン】

「海外事務所は何をしていますか？」これはよく聞かれる質問です。預金や融資などの銀行業務は行っておらず、ビジネス・経済分野で日本とロシア、北海道とサハリンを結びつける活動をしています。今回は文化・人材交流の分野におけるトピックスを紹介します。

9月28日 サハリン書道コンテスト表彰式



日本語弁論大会とあわせ書道コンテスト表彰式があり、入賞者5名に賞品を提供しました。賞品の手帳には各々「北」「海」「道」「銀」「行」の文字を書してお渡し、ロシア人書道家の皆さんにも大変喜んでいただきました。

9月29日 立命館慶祥高校サハリン研修

SGH(Super Global High School)認定校の取り組みの一環でサハリンに渡航され、取材協力しました。インバウンド観光がテーマで、ロシア極東において農業分野で実績のある当行に取材リクエストをいただき、「ロシア人観光客の誘致の方策として、ロシアと北海道との農業交流にヒントがあるのでは？」との生徒の方の鋭い着眼点に感心させられました。



10月30日～ 日露青年交流「北海道・サハリン州農業交流」

10/30～11/6の日程でプログラムが実現し、構想段階から携わっていた私もサハリン州の若手農業者8名と来道、一部同行しました。次世代を担う日露の若手農業者の交流により、ロシアは日本の農業技術を学び、日本側は農業の初心に立ち返る良い機会となった模様です。今後、両団体の友好関係が醸成され、来年度の訪露プログラム実現に向け、農業分野で活発な人材交流が継続されることを期待します。



達田 暢

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

「フィンテックガエルが大暴れ」

最近、中国経済ではカエルが跳び跳ね回っている。

「銭(gian)」と「ヒキガエル(蟾=chang)」の発音が似ていることから、古くよりカエルの置物は財運の縁起物として中国全土で親しまれてきましたが、最近は活躍の場を経済×ITに移しています。

近時、日本のメディアでも中国のスマホ決済が時折話題になり始めましたが、その利便性に駐在日本人達も感嘆の声を上げています。

例えば、飲食店を予約し、シェア自転車で店へ向かい、友人と割り勘で会計、タクシーの送迎で帰宅。この一連の所作は財布は不要で、スマホのみで完結出来ます。

これは中国が、固定電話やPCの普及前にスマホが普及(普及率は日本が約4割に対し中国は6割)したためであり、スマホをプラットフォームに様々なサービスが享受できるスキームが確立されました。このような一段跳び技術革新を“リープフロッグ(カエル跳び)”現象と言うそうです。古くはイギリス発の産業革命に出遅れたドイツや日本の蒸気機関時代を飛越え、いち早く電気の時代を切り開いたこともこうした現象の代表事例になっています。

興味のある方は「中国 フィンテック」で是非検索して頂きたいです。駐在日本人達が口を揃えてスマホ決済の最先端は中国だと言うのをご理解いただけたらと思います。



自販機もスマホをかざすだけ

村田 雄亮

北海道 ASEAN 事務所(シンガポール)

「日本まるごと OK ツーリズム」セミナーの開催(10月28日)

シンガポールに駐在事務所を持つ「北海道 (Hokkaido)」「静岡県 (Shizuoka-Ken)」「沖縄県 (Okinawa-Ken)」共同の観光セミナーを大型商業施設にて開催しました(名称は英語表記に「OK」を共有することから命名)。セミナーは、食・季節・体験にまつわるプレゼンを各道県とシンガポール間のライブ中継で結び、延べ約 380 人のシンガポール人が聴講しました。

共同開催を通じて感じたことは、「他の国と比べて」のみならず「他の都府県と比べて」北海道の何が魅力なのかという見方の重要性です。来場者から両県との違いを尋ねられ、自分が北海道以外の地域の状況をよく判っていないことに気がきました。そして、来場者に対して自県以外のことも交えた両県事務所員の説明を聞きながら、私も「なるほど」と学ぶことが数多くありました。

中には「来月も北海道に行く」「もう 6 回行った」というマニアもあり、北海道人気は本物です。食・季節・体験の全てがシンガポール人を惹き付けています。更に上を目指すには、他の地域にない魅力を自覚し、磨き、伝えることが重要です。「違い」を即答出来なかった経験を糧に、北海道の良さを見つめ直し、当事務所から北海道の魅力を発信していきます。



矢野 裕之